

精霊と聖域

沖縄は中国から伝播した風水思想の影響を受け、独自に発展させてきました。例えば、悪霊はまっすぐに移動してくるので、道はたとえわずかであろうとも何らかの形で湾曲しています。悪霊の威力を弱める別の手段は、この標識の近くにある、スンマシャーと呼ばれる石の塚で、精霊が宿と言われる樹木が植えられています。島には三つのスンマシャーがあって、東・西・仲筋の村々を守っていますが、これらも、人間を万物の力に同調させるという風水に由来するものです。また、T字路にある石敢當と呼ばれる石をはじめとした悪霊を追い払うための様々な仕掛けは、竹富島の特徴である現実と霊的な世界との調和をとっています。沖縄に本格的に風水が導入されたのは十八世紀ごろで、竹富島には、この頃に形成された集落がいまだに残っています。なお、竹富島には数々の聖域があり島民によって深く崇拝されていますので、島で過ごす際は次のことを守ってください。

1. 竹富島には多くの観光客が訪れます。自分が出したゴミはお持ち帰りください
2. 家の石垣から内側へは入らないでください。島民のプライベート空間です。
3. 集落内は島民の日常生活の場です。水着や半裸で歩かないでください。
4. 宿泊施設以外での宿泊を禁じています。キャンプや野宿はできません
5. 花・草・貝・魚・蝶・・・そっとそのまま眺めてください。みんな命はひとつです。
6. 御嶽（オン）は神聖な場所です。むやみに立ち入らないように、失礼のないように。